

平成19年度 県土整備部環境配慮事例報告書

事業主管課	道路建設課
実施機関	西部総合県民局 県土整備部(三好)

【事業の概要】

事業の種類	道路の整備	一般国道、県道、街路
事業箇所名	徳島県三好市山城町大川持～三好市山城町小川谷	
事業の規模・状況	4.5 km	中規模事業 施行段階

【事業の目的及び概要】

一般国道319号の三好市山城町大川持から小川谷間における幅員狭小、線形不良の隘路を解消し、安全で円滑な通行を確保することを目的として、現道拡幅による道路改良事業を実施し、平成20年3月に完成。

【実施した環境要素の一覧及びRDBの有無, モニタリングの要否】

大気環境	水環境	地形・地質等	生物多様性	景観	自然とのふれあい	文化財	廃棄物・温室効果ガス等	RDB種の有無	モニタリングの要否
						対象外			

【特に配慮した環境要素と実施事項】

本事業は、急峻な山間部に位置する現道を拡幅する工事である。また、従来工法では、大規模な切土や盛土が必要となり、多くの動植物の生息環境に多大な影響を与えるとともに、本箇所は西部に多く点在する地すべり防止区域内の道路工事であるため新たな地すべりの誘発も懸念された。このため、本事業では、工法を選定するにあたり、コストを考慮するとともに、これらの影響を最小限にするため、軽量盛土工、栈道橋等の工法を採用し、改良工事を実施した。

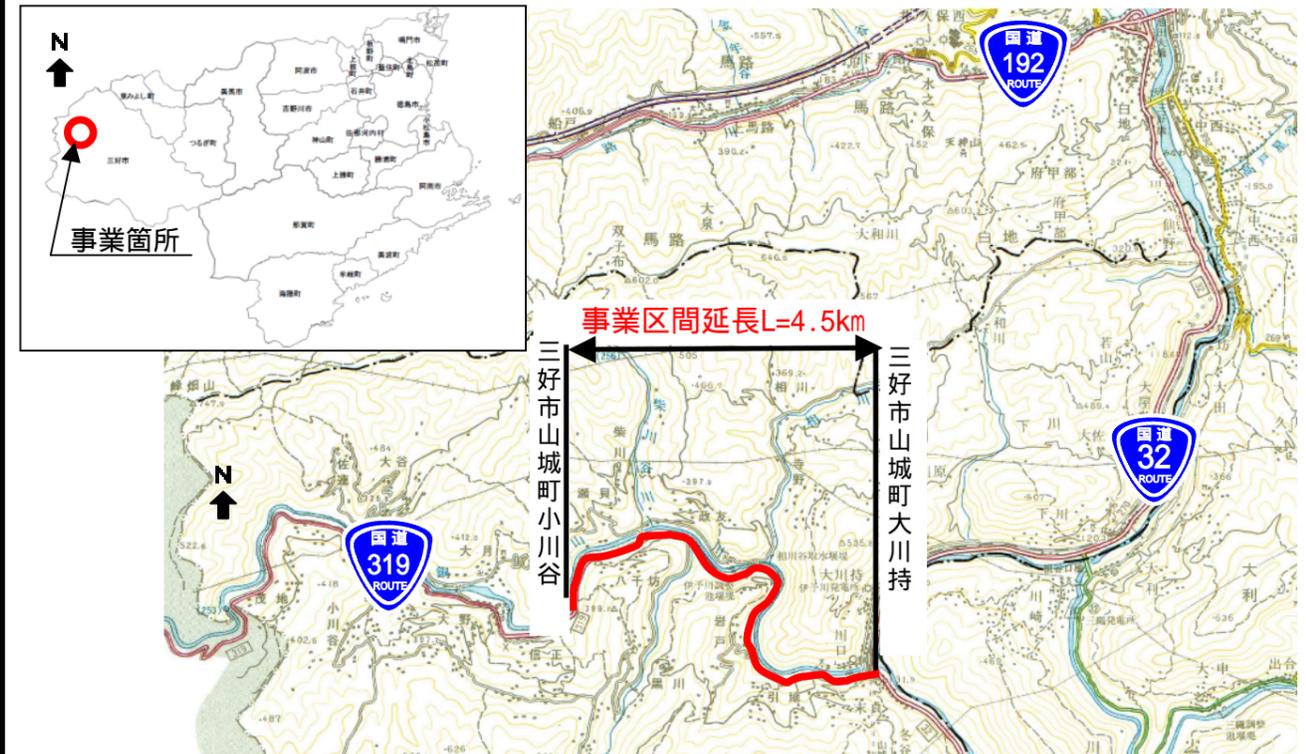
【目標に対する達成状況】

可能な範囲で施工幅を最小限にし、自然環境への負荷を軽減することができた。

【実施事項に対する評価】

実施者	軽量盛土工の実施により、森林の消失面積を抑えるとともに、河川の形状変更を回避したことにより、河川に生息する動植物への影響を最小限とすることができたが、一方で、小動物の移動経路に制限を与える恐れが危惧される。
主管課	軽量盛土工、栈道橋等の工法を用いることにより、施工幅を最小限にし、環境の保全に努めることができ、今後、同様の地形条件を有する事業箇所における参考事例となった。
専門家	・保全する緑地範囲は、将来の極相イメージを想定して保全範囲を考えること。 ・道路の拡幅が生態系へ及ぼす影響は、拡幅距離の三乗に比例するといわれており、きわめて影響が大きいと考えられている。今回の構造による河畔林の保全は、影響を大きく緩和することが期待できる。ただし、動物の移動経路は補償されていないので、今後、類似他事業においては、更なる工夫を期待したい。

位置図・平面図等



写真, 図面等

